

QI+6 クイックスタート

QI + 6 は、Adobe Acrobat 上で PDF 書類を表示しながら、面付け作業を行います。裁ち落とし・天地の反転・トンボ・ドブ幅・台紙の大きさ・面付けの種類（8 面付け・16 面付け）等に必要な設定を行い、面付け作業を簡単に進めて行く事ができます。

面付けの為に

ページ面付けを行う前に基本的な折丁を作成しておきます。

クイックスタートでは、4 つ折右開き 8P（平綴じ）を使用して作業を進めます。

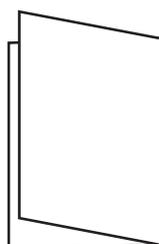
A4 サイズの紙を用意し手前に長辺を置き、時計回りに回しながら折って行きます。

折の回数によって、2 つ折り、4 つ折り、8 つ折り、16 折り、に分けられます。

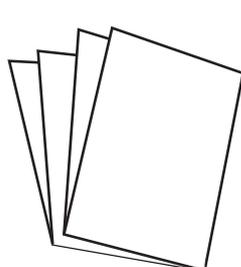
原則として、右開き（タテ組）は奇数ページが左になります。

左開き（ヨコ組）は奇数ページが右になります。

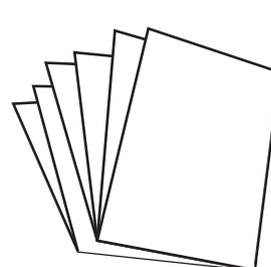
2 つ折り



4 つ折り



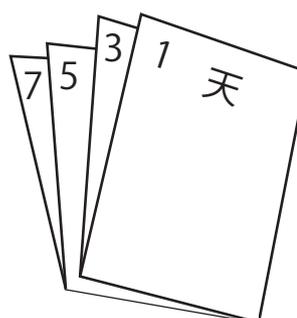
8 つ折り



2 つ折右開き 4P



4 つ折右開き 8P



天	天
1	4

表

天	天
3	2

裏

天	8	5	天
天	1	4	天

表

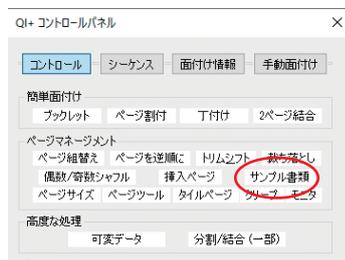
天	9	7	天
天	3	2	天

裏

実際にサンプルを利用して面付けを行います。

ここでは「4つ折右開き 8P 平綴じ」の面付けを行います。

Adobe Acrobat メニュー>プラグイン>QI+6>コントロールパネルを選択します。



QI + コントロールパネルが開きます。

サンプル書類を選択します。



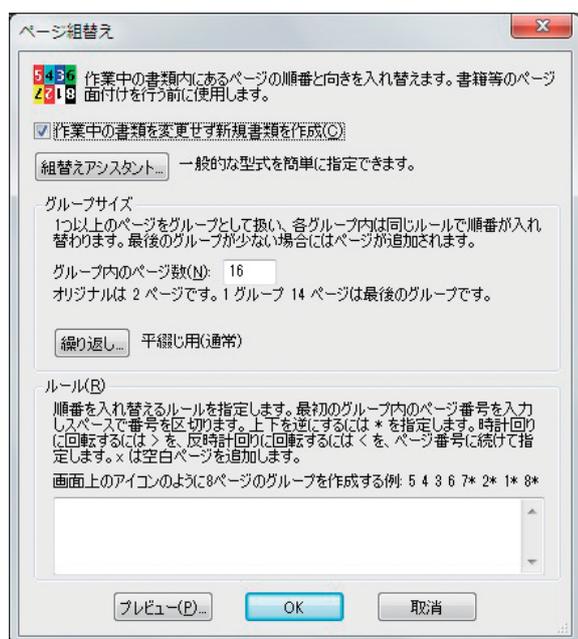
「新しいテストファイルの作成」16と▲▼から入力します。

「ページサイズ」A4 (210 × 297 ミリ) にチェックを入れます。

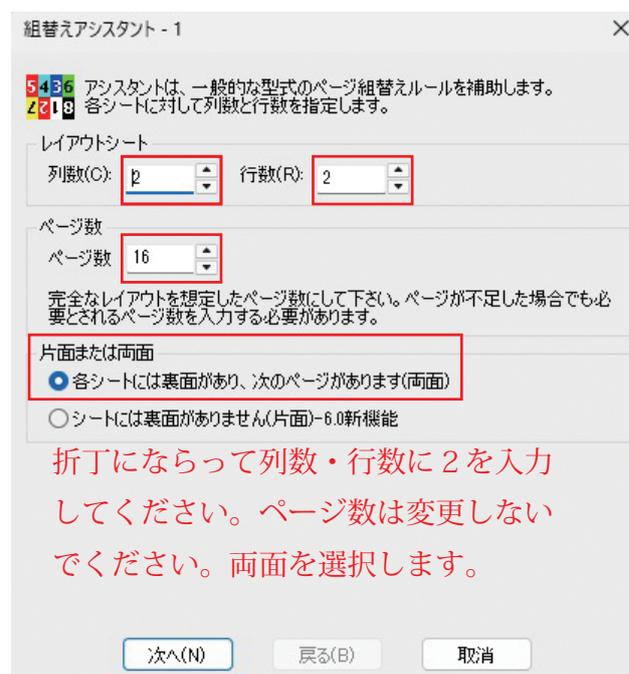
OK を選択することでサンプル PDF 書類が作成されます。

QI + コントロールパネルから「ページ組替え」を選択します。

ページ組替えウィンドウが開きます。



組替えアシスタントを選択します。



※ 「ページ数」は表裏の合計のページ数です。面付けを行いたい PDF のページ数が4もしくは8の倍数ではない場合は警告されます。

「次へ」を選択します。

組替えアシスタント - 2 が表示されます。

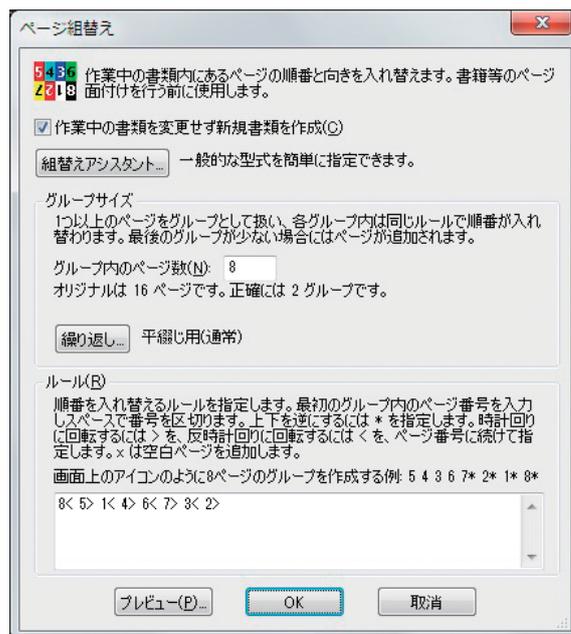


作成してある折丁から「表」の番号を入力します。(1 ページ目がある面が表です)
「ページを横向き」にチェックを入れます。
上下が逆になっているページは「180°」にチェックを入れます。

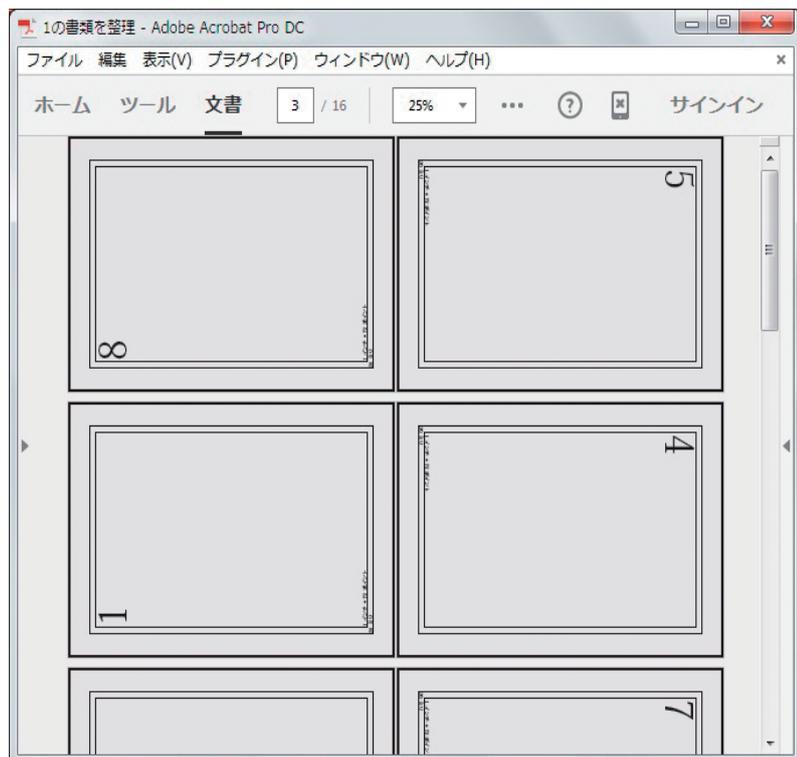
終了を選択すると、「ページ組替え」のウィンドウに戻ります。

グループサイズ「グループ内のページ数」は、表裏の合計ページ数で組替えアシスタントを使用した場合自動入力されます。

ルール部分に数字と記号が自動入力されます。



OK を選択します。

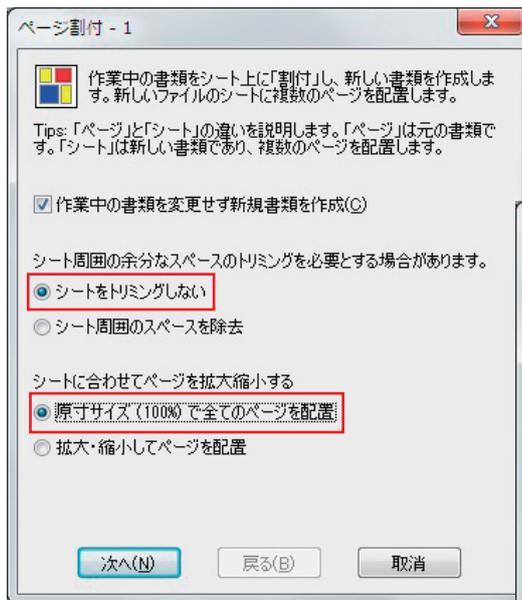


新しく PDF ファイルが作成されます。
ページの向きと順番が変わった PDF ファイルです。

整理された PDF ファイルを使用して、
割付を行います。

QI +コントロールパネルから「ページ割付」を選択します。

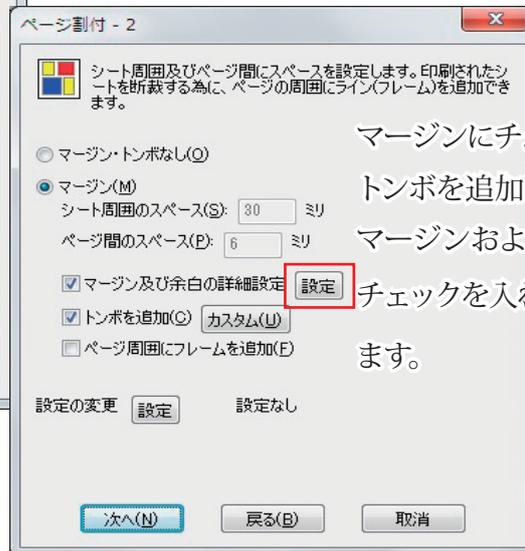
ページ割付-1 ウィンドウが開きます。



「シートをトリミングしない」と

「いいえ、原寸(100%)で全てのページを配置」にチェックを入れます。

ページ割付-2 ウィンドウが開きます。



マージンにチェックを入れます。

トンボを追加にチェックを入れます。

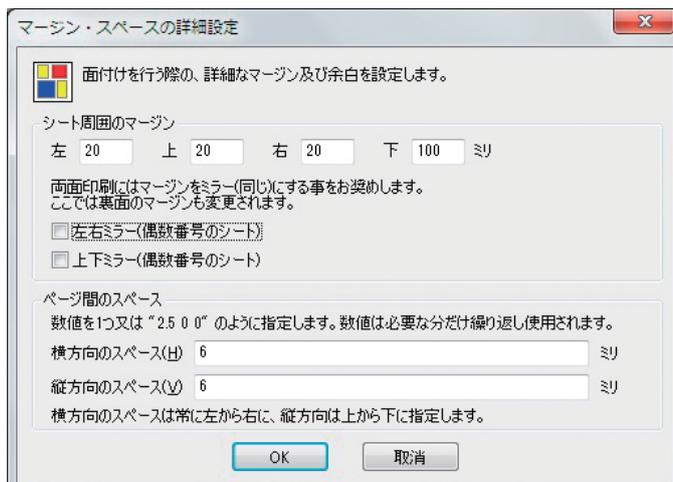
マージンおよび余白の詳細設定に

チェックを入れ、「設定」を選択し

ます。

「次へ」を選択します。

「マージン・スペースの詳細設定」ウィンドウが開きます。



上下左右に各マージン(余白)を入れます。

左・上・右は20mm 下は100mm 入力します。

(下はくわえ) ※くわえの位置は必ずしも下である必要はありません。

ページ間のスペース今回は縦横共に6mmを入力します。

OKを選択します。

ページ割付-2の画面に戻ります。

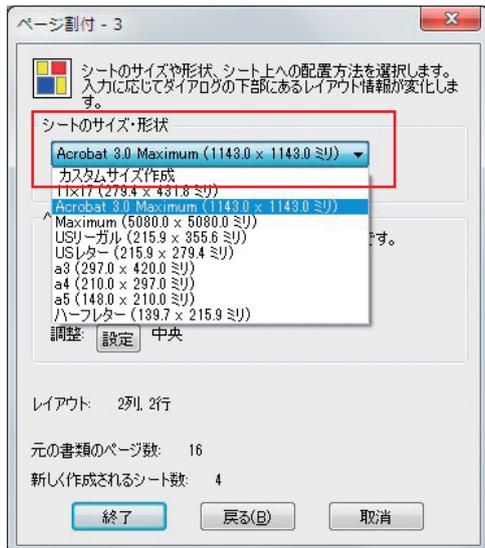
トンボを追加、「カスタム」を選ぶとトンボの形状・大きさ・太さを選択できます。

※トンボ形状は5種類から選択する形になります。

トンボを追加カスタム-バックトリミング「白近似」を選択するとトンボの周辺を白(CMYK各1%)を選択できます。

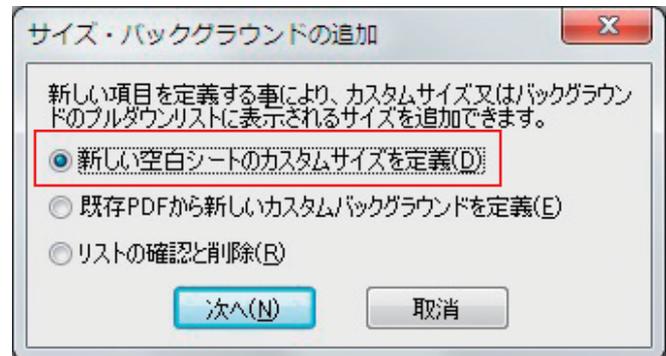
「次へ」を選択します。

ページ割付 - 3 ウィンドウが開きます。



シートサイズ・形状の▼を選択する事で、シートサイズを選択できます。

「カスタムサイズ作成」を選択します。

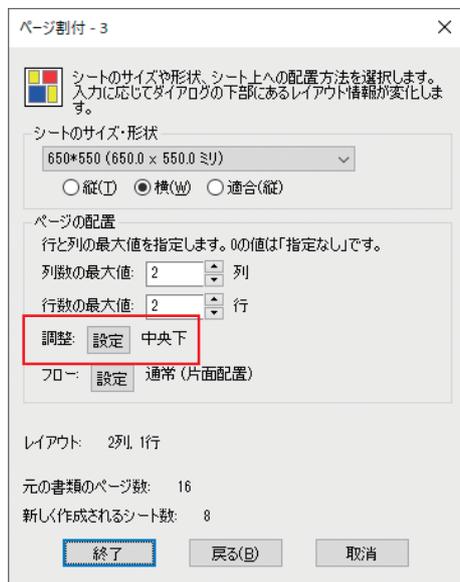


空白のシートに対して新しいカスタムサイズを定義を選択します。



幅に 650、高さに 550 を入力します。
分かりやすい名前をつけてください。

OK を選択するとページ割付 - 3 に戻ります。



シートサイズは先ほど作成した 650 * 550 を
選択してください。

折丁サンプルと同じになるように、列数 2、行
数 2 と▼▲から選択します。

「調整」設定を選択します。

位置調整ウィンドウが開きます。



中央下を選択します。

「OK」を選択します。

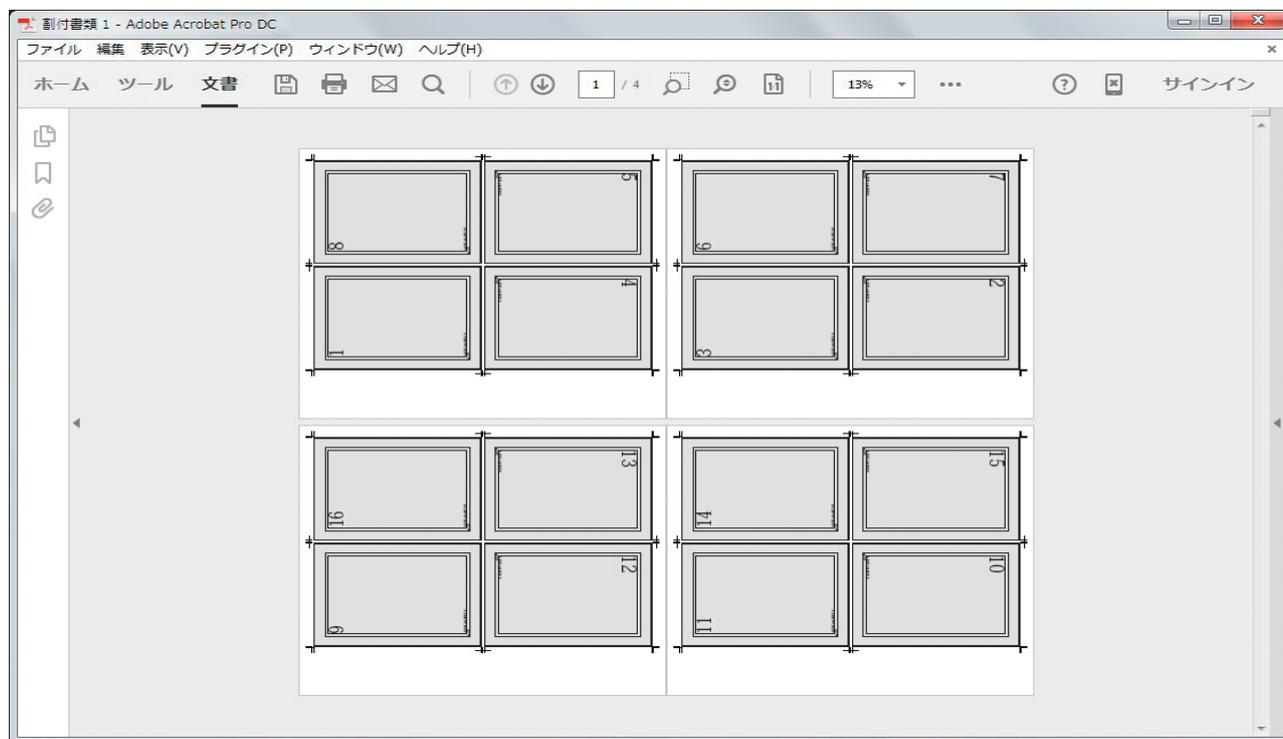
ページ割付 - 3 に戻ります。



※レイアウトが2列2行になっているかご確認ください。
シートサイズが小さかったり、余白のサイズが大きすぎる場合に、「新しく作成されるシート数」が8又は16になります。今回の場合「新しく作成されるシート数」は「4」になります。

終了を選択します。

「ページ組替えされたページが、左上から右方向へ順番に割付され、4ページの面付けされたPDFが作成されます。



シートサイズが版面サイズになります。

今回の場合「シートの周囲のマージン」が下だけ100mmにしてあり、

「位置調整ウィンドウ」で下基準から配置してありますのでシートの下から仕上がりがまで(くわえ)が100mmになります。

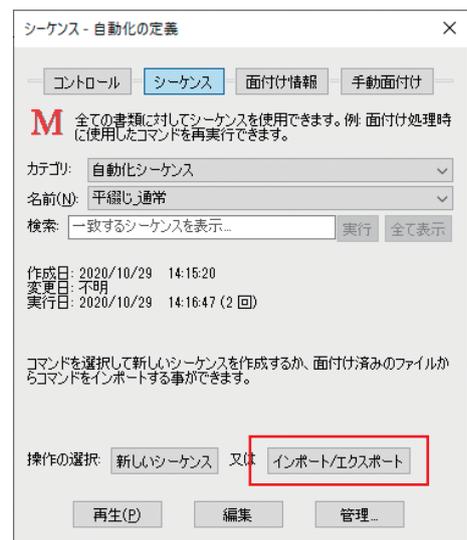
自動処理

QI + 6 では操作を自動化することが可能です。

まずサンプル書類を用意します。（「ページ組替え」中で組替えアシスタントを使用する場合に必要になります。）

QI + 6 コントロールパネルから「シーケンス」タブを選択します。

「インポート / エクスポート」を使用することで、簡単にシーケンスを作成する事ができます。



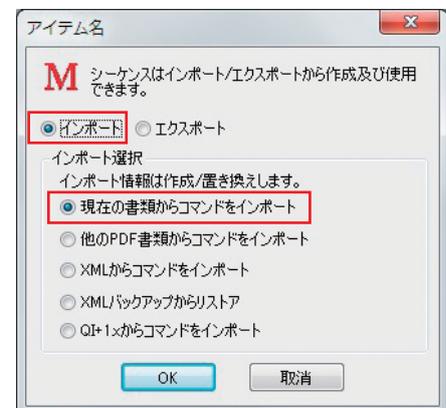
面付け完了している PDF ファイルを開きます。

QI + 6 コントロールパネル>シーケンス>「インポート / エクスポート」を選択します。

「アイテム名」ウィンドウが開きます。

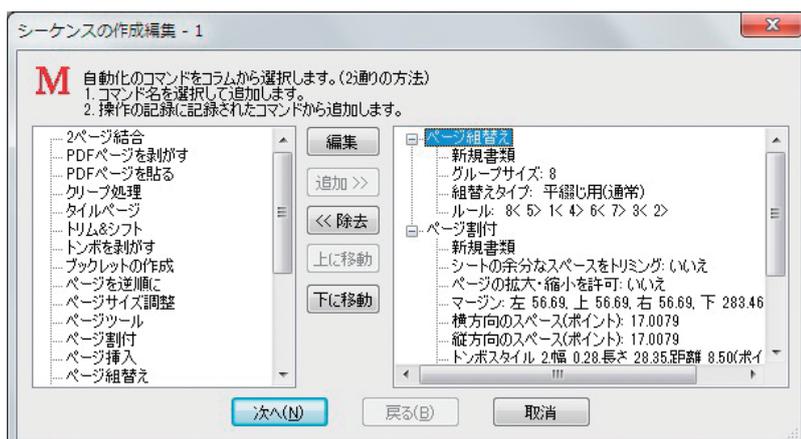
インポートにチェックを入れます。

「現在の書類からコマンドをインポート」にチェックを入れます。



OK を選択します。

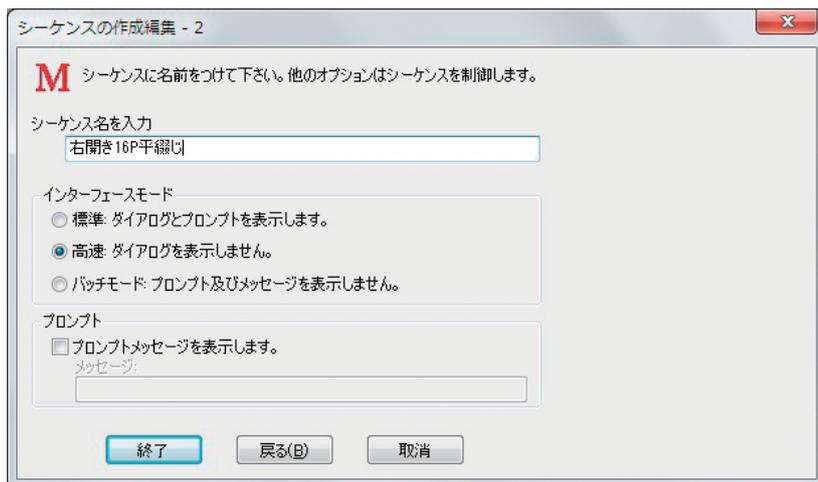
シーケンスの作成編集 - 1 画面が表示されます。



面付けに使用された、各コマンドが取り込まれます。

次へを選択します。

シーケンスの作成編集 - 2 ウィンドウが開きます。



シーケンス名を入力します。
後で分かりやすい名前をつけてください。
例えば、「右開き 16P 平綴じ」のように名前を入力します。
インターフェースモードは「高速」にチェックを入れます。

「終了」を選択します。

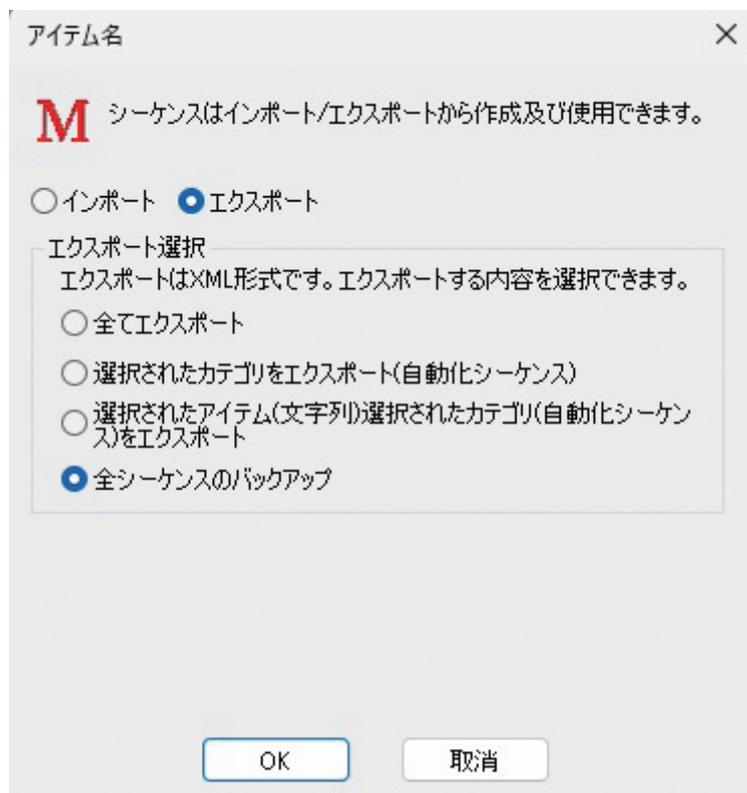
シーケンスを利用する

実際に面付けを行う PDF 書類を用意します。

QI+6 コントロールパネル>シーケンスを選択します。

使用する面付けパターンを「名前」から選びます。

「再生」を選択する事で、面付けを自動で行う事ができます。



エクスポート
「全シーケンスのバックアップ」はシーケンスファイルを XML ファイルとして保存します。

ページ組替え機能強化

・「組替えアシスタント」は両面のみに対応していましたが、片面にも対応する機能が追加されました。

組替えアシスタント - 1

5436 アシスタントは、一般的な型式のページ組替えルールを補助します。
2718 各シートに対して列数と行数を指定します。

レイアウトシート

列数(C): 2 行数(R): 2

ページ数

ページ数 80

完全なレイアウトを想定したページ数にして下さい。ページが不足した場合でも必要とされるページ数を入力する必要があります。

片面または両面

各シートには裏面があり、次のページがあります(両面)

シートには裏面がありません(片面)-6.0新機能

次へ(N) 戻る(B) 取消

両面印刷との違いは、両面印刷を選択した場合、裏面の用紙には表面と同じ用紙が右から左に反転して自動的に配置されます。

片面印刷は、単純な連続ページや片面カットの重ね刷りに使用できます。

カットスタック（串刺し面付け）は様々な用途に使用されます。

通常の本だけだけでなく、広告やチケットの束などにも使用できます。

可変データ (バリアブル印刷)

可変データは、CSVなどのテキストファイルを読み取り、その可変情報を対象のPDFに追加します。画像も追加できます。(PDFのみ)

テキスト情報は、「文字列 / 番号を貼る」機能のように追加され、画像は、貼りつける画像PDFをCSVに記述されたページ番号によって、そのページ順にある画像を貼りつけます。

このテキストファイルを、「データソース」と呼びます。

可変データ結合は、次の2つの方法いずれかで使用します。

・「マスター書類」がある場合：マスターPDFは都度コピーされ、データソースの可変テキストまたは画像を貼りつけます。

繰り返して使用するPDFを「マスター」と呼びます。

これは、Microsoft Word® や Adobe InDesign® などのデータ結合 / 差し込み印刷機能と類似しています。

・「マスターではありません」：既存のページにレコードを追加します。

この書類は複製されず、各ページにデータソースを使用した情報を追加します。

これは、「文字列 / 番号」の貼りつけ、「PDF ページ」の貼りつけに似ていますが、書類の各ページ（またはページの各グループ）に異なるテキストまたは画像を貼りつけます。

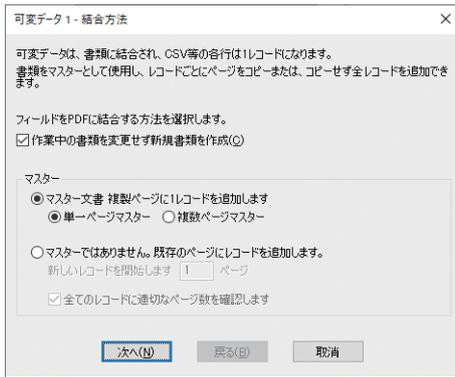
可変データサンプル

製品名	特徴	価格	画像
EHD-MST14050LM	立ち作業や小規模ミーティングデスクに最適なスタンディングデスク。	¥38,280	1
ALD-14070N	オフィス環境に柔軟に対応。	¥108,900	2
ERD-MTGN180120W	電動昇降で素早く立ち座りの姿勢を取れるミーティングデスク。	¥338,800	3
ERD-HL12070	耐荷重 200kg 工場などでの作業台に最適な電動上下昇降作業台。	¥440,000	4

※書き出しするエンコードは UTF-8(unicode) で書き出します。

例 Microsoft Excel から CSV 書き出しを行う場合、2019 以降のバージョンでは「CSV UTF-8」を書き出すことができます。それ以前のバージョンでは、一旦 CSV へ書き出し、「メモ帳」などで文字コードを UTF-8 に変更して使用します。

コントロールパネル>可変データを選択します。



初めにマスター書類の有無を選択します。

マスター書類がある場合：通常1ページですが、シートの表裏など複数ページの場合があります。

書類全体に繰り返して同じマスターを使用します。

「単一ページマスター」を選択した場合、現在の書類は1ページである必要があります。

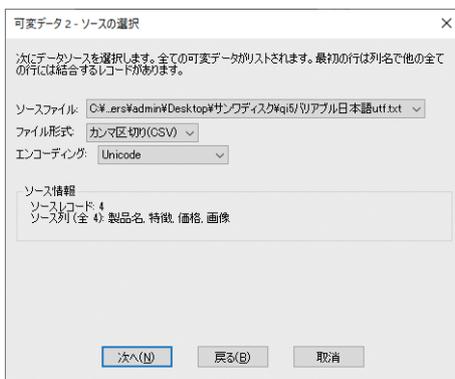
「複数ページマスター」を選択した場合、現在の書類は複数ページ（表裏など）になります。

「マスターではありません」を選択した場合、現在の書類に

対し、各レコードを使用するページ数を選択する必要があります。

通常値は1です。

「全てのレコードに適切なページ数を確認します」のチェックは、テキストの行数とPDFページ数が一致しない場合エラーになります。



次に、ソースファイルを選択します。(▽からブラウズ)

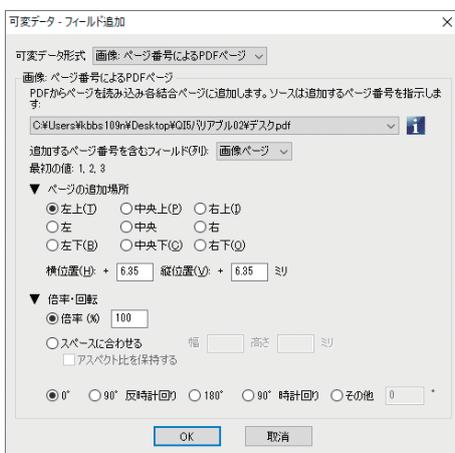
※使用するファイル形式を選択し、エンコーディングは「Unicode」を選択してください。

テキスト情報を書類に追加するフィールドを選択します。

※1つ以上の「フィールド」を追加する必要があります。

テキスト用のフィールドでは、フォントの種類、サイズ、位置、色などを選択します。

複数のテキストを一緒に追加するには、以下のテキストブロックを参照してください。



※画像用のフィールドでは、追加する画像だけのPDFページを単一ファイルとして準備する必要があります。(切り抜き画像はクリッピングパス保存)

可変データ形式から「画像」を選択すると、PDFファイルを選択するウィンドウが表示されます。

「ブラウズ」から配置するPDFファイルを選択します。

「追加するページ番号を含むフィールドを(列)」を選択します。

レイアウト位置を選択します。

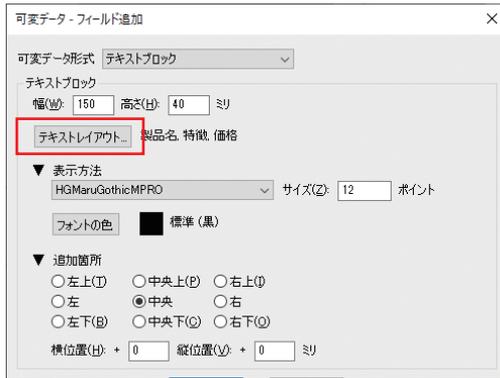
テキスト情報には、追加するページ番号を記載しておきます。

テキストブロック

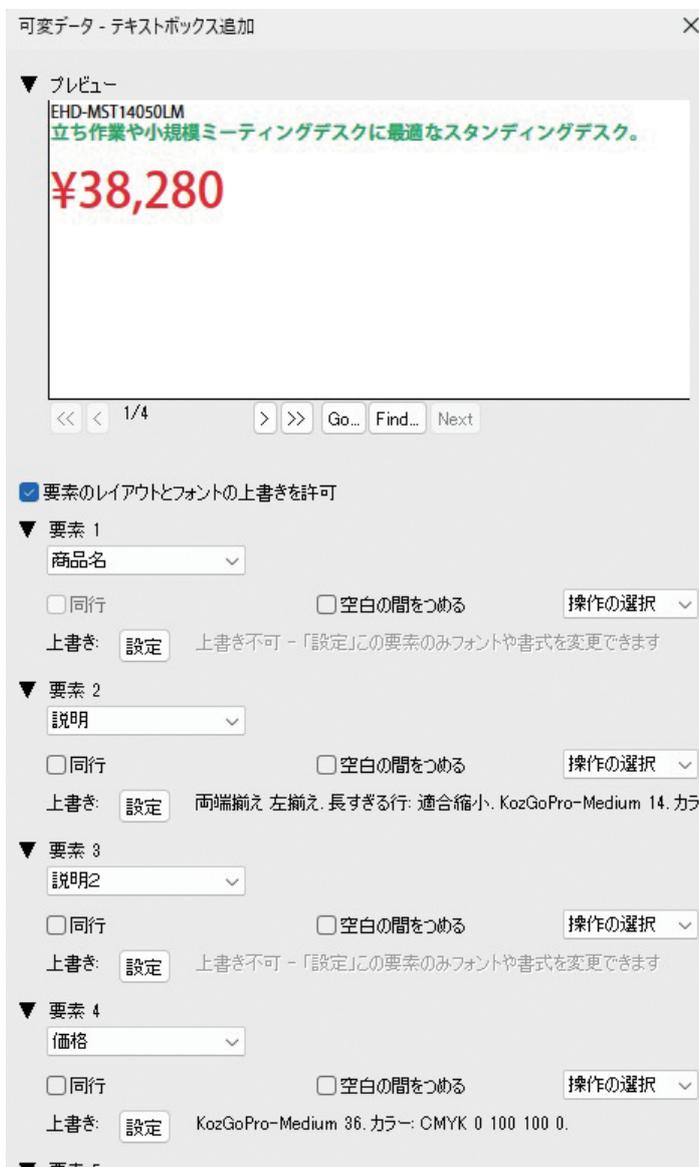
テキストブロックは、可変データの便利な機能です。宛名ラベルなどのテキストブロックを作成できます。

- ブロック内のレコード表示をプレビューします。
- 「同行」は列を1行に結合します。
- 「空白の間をつめる」機能は、行が空白になる場合に、空白行を上部に詰めます
- テキストを直接入力できます。

「テキストブロックの追加」



可変データ・フィールド追加画面で、テキストブロックのサイズと位置を入力します。ターゲットとなる現在のページには、ブロックを配置する場所に対して赤い枠を表示します。配置する位置を指定し、フォントとサイズを選択します。次に、「テキストレイアウト」をクリックします。



プレビューが表示され、下側にあるナビゲータボタンを使い、データソースを表示できるようになりました。

「<<」「<」「>」「>>」のボタンがあります。

- 特定のレコードを表示します。

ナビゲータには「Go」ボタンがあり、番号で特定の行をプレビューできます。

- ナビゲータには「Find」ボタンがありテキスト検索が可能です。

テキストブロックには、読み込むテキスト行数の要素があります。

- 要素1「商品名」
- 要素2「説明」
- 要素3「説明2」
- 要素4「価格」

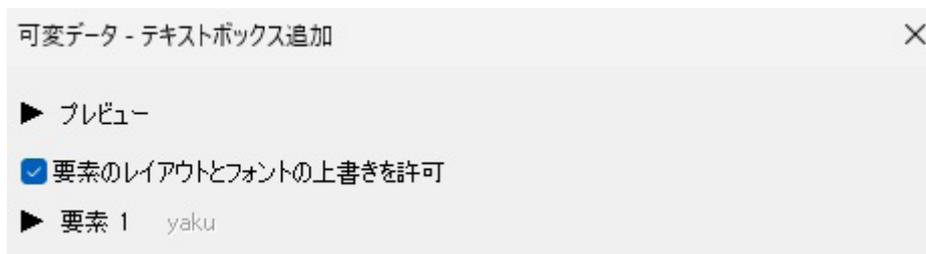
プレビューの表示が更新されます。

長い行は収まるように縮小表示されます。(青字)

テキストが50%未満に縮小される。(赤字)

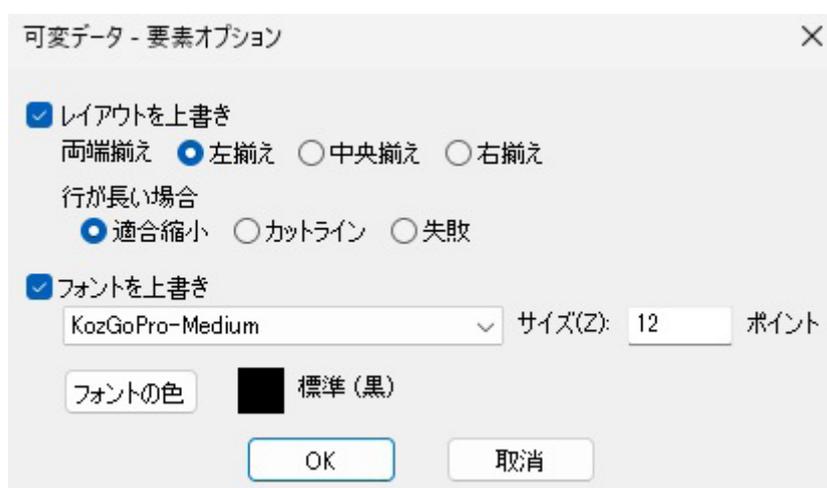
「要素のレイアウトとフォントの上書きを許可」

テキストボックスプレビュー画面の「要素のレイアウトとフォントの上書きを許可」を選択すると「設定」ボタンが表示されます。



テキストブロック内でフォントを切り替えられるようになりました、複数のテキストブロックを作成し、画像フィールドと混在させることもできます。

テキストブロックプレビューに多くの機能が追加されました。



- 長い行の処理を選択できます。

適合縮小 : テキストサイズが縮小されます。

カットライン : テキストブロックのサイズでテキストがカットされます。

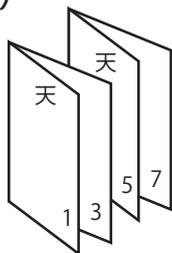
失敗 : 行が長すぎる場合は失敗 (エラーメッセージを表示して停止)

- 要素ごとにフォントを上書きできます。

その他の機能は [Readme・QI+6 スタートガイド](#) 及び [オンラインガイド](#) をお読みください。

QI + 6 コントロールパネルから「？」を選択すると [Readme・スタートガイド・オンラインガイド](#) を参照できます。

代表的な面付けパターン(平綴じ)



2つ折右開き 4P

①

天	天	天	天
1	4	3	2
表		裏	

2つ折左開き 4P

②

天	天	天	天
4	1	2	3
表		裏	

③ 4つ折右開き 8P

天	8	5	天	天	9	7	天
天	1	4	天	天	3	2	天
表				裏			

④ 4つ折左開き 8P

8	天	天	5	6	天	天	7
1	天	天	4	3	天	天	2
表				裏			

⑤ 8つ折右開き 16P

表

天	天	天	天
5	12	9	8
4	13	16	1
天	天	天	天

⑥ 8つ折左開き 16P

表

5	12	9	8
天	天	天	天
4	13	16	1

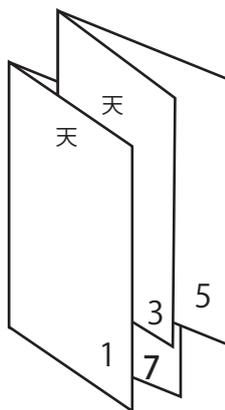
裏

天	天	天	天
7	10	11	6
2	15	14	3
天	天	天	天

裏

7	10	11	9
天	天	天	天
2	15	14	3
天	天	天	天

代表的な面付けパターン(中綴じ)



2つ折右開き 4P

2つ折左開き 4P

⑦

天	天
1	4

天	天
3	2

⑧

天	天
4	1

天	天
2	3

表

裏

表

裏

⑨ 4つ折右開き 8P

⑩ 4つ折左開き 8P

天	4	1	天
天	5	8	天

天	2	3	天
天	7	6	天

4	天	天	1
6	天	天	8

2	天	天	3
7	天	天	9